

タンボの木だより

—— 友の会会員の皆さまと記念館を結ぶ会報誌 ——

vol.55
2025 冬号

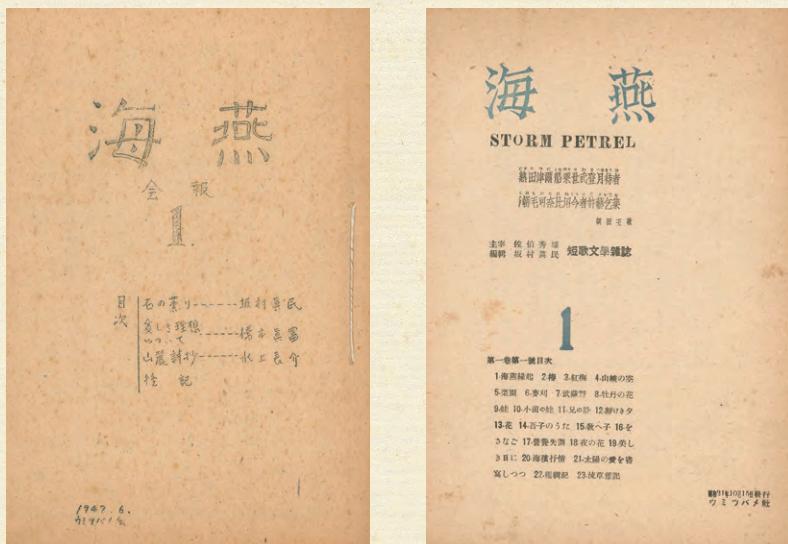


すずき出版発行「心のうたかれんだあ」(平成6年版)より 詩／坂村真民「心一つで」 画／海野阿育

坂村家のアルバム

歌の終わり、詩のはじまり——三瓶の地にて——

vol.25



海燕会報 1

海燕短歌文学雑誌 1

昭和21年春、真民は、愛媛県三瓶町（現・西予市）にある私立山下第二高等女学校の教員として、戦後の一歩を踏み出しました。これは、短歌誌「蒼穹」同人佐伯秀雄氏が校長であった歌縁によるものです。そして、その年の秋には、短歌文学雑誌を発刊するに至ります。

写真は、昭和21年10月15日発刊「海燕 (STORM PETREL) 短歌文学雑誌 1」と、昭和23年6月発刊「海燕会報 1」です。短歌文学雑誌は活字版で、主宰佐伯秀雄・編集坂村真民と記されています。

一方、海燕会報はガリ版手刷りで、紙綴りで綴じられています。詳しく見てゆきましょう。

海燕短歌文学雑誌 1には、小さくて読みにくいのですが、万葉仮名で額田王の歌が書かれています。平仮名表記で紹介しますと、にぎたつに／ふなのりせむと／つきまでば／しほもかなひぬ／いまは／こぎいでな

短歌誌発刊の意気込みが伝わってくるようですね。会員20人の方が歌を詠まれています。

——私は偉い歌人になろうと思つて歌をつくってきたのではなく、また多くの人のよう

しかし、毎月一回発行の予定が、第2号は翌年1月、第3号は4月、第4号には、『休刊せむとする海燕に寄す』という真民の一文がありました。情熱だけではどうすることもできなくなり、これ以上の赤字は会員の皆様へ迷惑をかけるばかりである旨が書かれています。会員の会費は、月2円、3円、5円と上がっているようですが、赤字は解消出来なかつたのでしょう。最終号は、昭和22年とだけ、交付の欄は空白です。

こういう状況の中で、次に生まれたのが「海燕会報」なのです。ガリ版刷りと紙綴りの意味がお分かりになるでしょう。「会報誌 1」は昭和23年6月発行、作品は3人のみ。その中の、詩篇「石の薰り」は真民作、詩の登場です。それ以後会報は、真民と水上良介さんの2人だけとなり、会報は全て、この水上良介さんが編集作成を手掛けて下さっています。ここで、真民歌集「石笛」後記の一部を紹介します。

表紙の詩



心一つで (71歳)
生きていることが
楽しくならねばならぬ
たとえ貧乏していくても
ベッドに寝たきりでも
心一つで
楽しくなれるものだ
光が射してくるものだ
人々の幸せのために
湧出してこられた
仏さま方が
手を差しのべていられるのだ
だからしつかりと
おん手を握つて
楽しく生きてゆこう

この詩は、昭和55年5月1日発行の「詩国215号」に掲載されている、真民71歳の詩です。

真民の人生の中で、一番充実していた頃の詩ですね。「湧出してこられた仏さま方」とは、「法華經・從地涌出品」に出てくる話で、釈迦が晩年に弟子たちを集め、自分が亡くなった後、その教えを如何に人々に広めていくかという説法をしている場に、地の底から湧き出るように出現された菩薩たちが、「我々はこれまでずっと地下で、人々を幸せにするための教えを学んできたが、お釈迦様の呼びかけに応えてこれからその勤めに参ります。」と言って地上に出てきたというもので、この菩薩たちのことを「地涌の菩薩」と言うのです。

(真民20歳の歌)
正しくも生きゆくときは天地の
神も助くと母は告らすも

(真民41歳の歌)
海はるか今日九州の山ぞ見ゆ

妻子を連れて登りきぬれば

に趣味や風流からでもなく、まったく生きてゆくための杖として綱として、この小詩型につながり繋ってきたのであります。
しかしこの会報も、4冊目で途切れてしましました。

2人にとっては、歌をつくることと生きることは同じで深く結び合い、お互いそれを理解しあっていたように思います。この水上良介さんは、朝鮮時代の生徒で真民から短歌の手ほどきを受け、その後もずっと短歌の道を究められた方です。もうこの頃には、真民にとっても、歌友と呼ぶ存在で、郷里が真民と

同じ熊本、坂村家とも関わりが深くなつてゆかれます。
この三瓶時代で、真民は短歌の道に終わりを告げました。昭和4年真民の最初の蒼穹投稿歌(20歳)と昭和25年蒼穹を退いたときの最後の歌(41歳)を紹介しています。母親を思う歌に始まり、故郷を恋う歌で終わったのです。

文／西澤真美子

坂村真民記念館を応援して下さる皆さんへ

令和7年11月の砥部町広報紙（全戸配布）で、古谷町長が、「坂村真民記念館の現状と今後」について、町民向けに1ページを使って説明しています。

私としては、そこで見逃されている「記念館の効用」と町民をミスリードする「赤字額の数字」に対する私の考え方をまとめましたので、客観的な立場で、読んでください。

【経緯】

坂村真民記念館は、2012年3月に砥部町の町営施設として開館しました。

これは当時の町長が熱心な真民詩の愛読者で、砥部町の名誉町民でもある坂村真民を全国に向けて顕彰・記念する施設として、大多数の町民の賛同を得て、建設されたものです。

その後13年間、赤字経営の中でも、存続を前提に経営努力を重ねて、維持運営されてきました。

【私の考え方】

私としても、坂村真民記念館の現状を皆さんに知つていただき、記念館

で当選された新しい町長が、記念館の赤字経営を問題視し、赤字額のみに焦点を当てて訴えているのです。

【町長の説明要旨】

坂村真民記念館は開館以来の累積赤字が、1億7600万円にまで膨れ上がり、年間約100億円の砥部町の予算からするとかなりの額であり、赤字ということは、町民の皆さんに提供するサービスに充てられる財源が減っているということで、私はこういう状況は見過ごすことはできないと考えました。

坂村真民記念館は、2012年3月に砥部町の町営施設として開館しました。これは当時の町長が熱心な真民詩の愛読者で、砥部町の名誉町民でもある坂村真民を全国に向けて顕彰・記念する施設として、大多数の町民の賛同を得て、建設されたものです。

これは当時の町長が熱心な真民詩の愛読者で、砥部町の名譽町民でもある坂村真民を全国に向けて顕彰・記念する施設として、大多数の町民の賛同を得て、建設されたものです。

この現状から目をそらさず、検討していくべきたい。

私は見過ごすことはできないと考えている。赤字を削減できる可能性があるのか、将来的な姿をどう描くのか、この現状から目をそらさず、検討していきたい。

赤字を減らす一番の対策は、入館者数を増やして入場料収入と売店の売上を上げ収入を増やすことに尽きます。

そのためには、町内・県内はもとより全国の真民詩のファンの方々に、この現状を打破するために、多数の方に来館していただこうことしかありません。

そのためには、記念館について効果

ところが、2025年1月の町長選挙で当選された新町長が、記念館の赤字経営を問題視し、赤字額のみにとより、愛媛県内、さらには全国の真民詩のファンの皆さんと共に考えたいと思っています。

どうか、皆さんのご協力により、皆さんの周りの方々に坂村真民記念館のことを宣伝してください。

古谷町長が就任して以来、私たち夫婦は全国の真民詩ファンを訪ね、記念館の窮状を訴え、「記念館の基金」への寄付や「友の会」への入会を勧めてきましたが、やはり記念館への来館者を増やすことが根本的な対策であると思います。

坂村真民の「自分を顕彰する記念館は絶対に建てるな」という遺言に対して、当時の砥部町長の熱い思いに応えて、坂村家の家族と相談して、「真民詩を知らない若い人たちや全国の真民詩のファンに気軽に来てもらえる記念館になるのであれば、真民も許し



このQRコードは、砥部町広報紙「広報とべ」2025年11月号19ページ「坂村真民記念館の現状と今後」に掲載された町長の説明文にリンクしています。
出典：砥部町(<https://www.tobe.ehime.jp/>)

てくれるに違いない」という結論になりました。

大多数の町民の理解を得て立派な記念館が建てられたという経緯を考えれば、「人に迷惑をかけてまで物事を進めるな」という真民の生き方に沿う形で、解決策を考えいくことが必要であると考えています。

④

赤字額だけを強調した説明には、数字に表れない効用についての考察が抜けています。私は、この記念館が存在することによる経済効果、文化的価値を正しく理解することが必要であると考えます。

①坂村真民記念館を砥部町の宝物と

して考えてくださる人が全国にたくさんいること。

②全国に向けて砥部町のブランド力を高める施設であること。

③砥部焼を知らない県外客の方に、砥部焼伝統産業会館や町内の販売店を紹介することによって、砥部焼ファンを拡大していること。

④町内の青少年の「心の教育」に大きな貢献していること。

⑤砥部町の高齢者の「心の支え」となっていること。

⑤

また、全国の市町村が経営する文学館、美術館等の施設においても、同程度あるいはもっと多くの赤字になつてゐるのが現状で、各市町村は文化政策の一環として赤字分を一般財源で補填しているのです。

さらに、累積赤字額1億7600万円という数字についても、砥部町の収入に占める町税収入は22%で、残りは国の交付税等で賄つている現状からすれば、この赤字額の実質的な町民の負担(町税相当額)は、1億7600万円の22%の3900万円(年間にすれば3000万円)であると考えられます。

もちろん、この数字でも、砥部町の町民の方々の負担によって、記念館が維持・運営されていることは間違いないく、町民の方々のご理解なくして記念館を維持・運営していくことはできません。

砥部町の町民の皆さんと共に賢明な判断を求めていきたいと思っています。どうぞ、皆さんのご支援とご協力を、心からお願いいたします。

館長 西澤孝一

information



企画展「真民さんのまなざし～真民さんが見つめていたもの～」開催中

開催期間 2025年10月11日(土)～2026年3月1日(日) 休館日／月曜日(祝日の場合は翌日)、12月29日～1月1日

自作の手帳で 真民詩をより多くの人に

なかむら つよし
中村 剛志 さん

砥部町長を11年間勤めた中村剛志さんは、坂村真民記念館の生みの親でもある。真民さんが40年あまり詩作にいそしみ、終焉の地となった砥部から、その言靈（ことだま）を後世につなぎたいという思いが、中村さんを奮い立たせた。現在も多忙な社長業のかたわら、心の拠りどころとなる真民詩を集めた自作手帳を常に携行し、その魅力を伝えている。

近年の急激な物価高騰や感染症の影響で、全国のミュージアムは危機に直面しています。坂村真民記念館も例外ではありません。ここに、坂村真民記念館設立に奔走した元砥部町長中村さんの手記を再掲します。坂村真民記念館は人の心に「必要」な真民詩を紹介し、次世代へつなぐ役目を担つて誕生しました。



◆緊張した初対面

私が初めてお会いしたのは30年ほど前、ライオンズクラブでの講演のお願いでどうかがった時です。

営業職で人と会うのは慣っていましたが、「詩人」は初めて。しかも、夕方5時には就寝されるという偉い先生

に、午後7時からの講演依頼はとんでもないことに思えて、もうガチガチでした。ところが、「行きましょう」とござ

快諾。嬉しかったですね。

◆記念式典でのサプライズ

私が町長在任中の平成18年に真民さんは亡くなりましたが、3年後に生誕100年を記念する集いと詩墨展を企画しました。準備のため、真民ファンだった父の書棚の本を読み直すうちに、こんな素晴らしい詩人を埋もれさせてはいけないという思いがしだいに膨らんでいったのです。

平成21年10月の「生誕100年の集い」には、会場に入りきれないほど多くの真民ファンが全国から駆けつけ、真民詩が大きく根を張っていることを痛感しました。

その舞台で、講演者の石川洋先生から、「念ずれば花ひらく」と書かれた太い帯封を手渡されたのです。真民碑は世界に何百基とありますが、記念すべき1号碑の原本となつた書でした。思いがけないできごとに、感激のあまり涙がポロポロとこぼれ、「なにがあつても真民さんの記念館を作ろう」と、決意が固りました。

◆3・11のオープン

翌春から会館建設のための寄付募集が始まり、2年後の開館までに約700件、5000万円以上が集ま

りました。建設反対の声もありましたが、真民さんが砥部に暮らした40年は、理正院での「つゆくさの会」や朴庵での月例会など、充実した活動期であり、町民との交流も盛んだったことから、多くの支持をいただきました。

癒しと勇気をもたらす真民詩によつて、前年に起きた東日本大震災の被災者にも再スタートを切つてほしいとの願いから、震災翌年の3月11日開館を決断しました。会館ができたことで、ファンのすそ野がさらに広がり、地域の活性化にもつながっていると感じています。

◆自作の手帳でアピール

私は自作の真民手帳をカバンに入れ、時間を見つけては目を通しています。多くの人に記念館に足を運んでほしいという思いで、人に勧める時にも使っています。

真民詩は素直で穏やか、そして平等の精神にあふれています。「人にはそれぞれ事情があるから、決して人のことを悪く言ってはいけない」と父によく言われました。その戒めは真民さんの思いと重なります。自己主張と闘争心が強かつた私が、昔に比べて穏やかになつたのは、真民さんのおかげです。

坂村真民記念館を応援しています



『木は氣なり』

百年の木には百年の氣が宿り
千年の木には千年の氣が宿る

鳩寿四 真民詩

南木曽木材産業株式会社

〒399-5302 長野県木曽郡南木曽町吾妻1187 代表取締役 柴原 薫

TEL 0264-57-4000 FAX 0264-57-2006 <http://www.nagiso.co.jp> メール kao@nagiso.co.jp

砥部の地で、医療、看護、介護の三位一体を実現する砥部病院



介護付有料老人ホーム
To-be
全78居室/20m²~24m²(1F&2F)



住宅型有料老人ホーム
モンレーヴ砥部
全18居室/40m²~90m²(3F)

伊予郡砥部町麻生51-1(砥部病院西隣) TEL.089-969-0085 砥部病院ケアサービス株式会社



医療は
人なり

徳真会グループの想い

医療法人徳真会グループは、1981年

新潟県の旧新津市という地方の小さな町より始まりました。ユニット3台、スタッフ6名といった、どこにでもある様な小さな歯科医院からスタートし、以来45年間、常に患者さま本位の歯科医療の在り方を追求し続けてまいりました。

また、国家依存度の低い自立した組織運営を模索し、「世界が舞台」という意識で組織創りを目指してまいりました。

現在、年間70万人の患者さまにご来院いただく、日本最大級の歯科医療グループとなっていますが、時代先駆の歯科医療グループの創造を目指して、私たちの挑戦はまだまだ続きます。



新潟、宮城、東京、大阪、福岡に30医院。
詳しくはホームページをご覧ください。

徳真会グループ



検索

www.tokushinkai.or.jp



念すれば
花ひらく
苦しいとき
母がいつも口にしていた
このことばを
わたしもいつのころからか
となえるようになつた
そうしてそのたび
わたしの花が
ふしぎと
ひとつひとつ
ひらいていった

坂村真民

私たちちは坂村真民記念館を応援しています。

株式会社 アイビ広告

代表取締役会長 吉田 秀明

株式会社 スカイネットシステム
代表取締役 中岡 富茂

社会福祉法人 宗友福祉会

会長 丹生谷 宗久

株式会社 そごうマート

代表取締役 城戸 陽一

株式会社 よんやく

代表取締役社長 加賀山 誠

株式会社 致知出版社

代表取締役 藤尾 秀昭

坂村真民記念館友の会 会員募集中

坂村真民記念館友の会は、会員の皆様と記念館との交流を図り、記念館と共に支え、育てていくことを目的とした会です。入会された方には会報と、真民グッズなどの記念品を贈呈します。

パスポート会員 **特典** 会員証で入館無料1人 ほか
年会費2000円

一般会員 **特典** 会員証で入館無料1人 ほか
年会費5000円

特別会員 **特典** 会員証で入館無料2人 ほか
年会費10,000円

法人会員 **特典** 会員証で入館無料2人、
年会費10,000円 観覧券10枚贈呈 ほか

〈編集後記〉

「海燕短歌文学雑誌」の投稿者のなかに、真民が詩に転じた後もずっと真民詩の熱心な読者として寄り添って下さっていた方々のお名前を見つけて懐かしく、とても嬉しく、ありがたい気持ちでいっぱいになりました。

(真美子)

タンポポだより vol.55 冬号

令和7年12月1日発行

発行元／坂村真民記念館友の会事務局
〒791-2132 伊予郡砥部町大南705 坂村真民記念館内
TEL089-969-3643 FAX089-969-3644

【坂村真民記念館】

開館時間／9～17時(入館は16時30分まで)

休館日／月曜(月曜が祝日の場合は翌日)、12月29日～1月1日

入館料／65歳以上300円、一般400円、高校生・大学生300円、
小・中学生200円 ※15人以上の団体は割引あり

詳しくはホームページをご覧下さい

坂村真民記念館 友の会

検索